

日本語教材まつり2018 in 大阪

日時：8月25日（土）13：30～17：20（受付開始13：00）

会場：TKP 大阪本町カンファレンスセンターホール 3B
（〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 3-5-19
大阪 DIC ビル 3F ）

対象：日本語教育に興味のある方
（ボランティア、日本語教師、養成講座受講生など）

参加費：1,000 円（税込）

定員：120 名（先着順。定員になり次第締め切ります）

申込み：イベント名、開催日時、申込者氏名・住所・電話番号・
メールアドレスを下記宛にご連絡の上お申し込みください。

問合せ / 申込み先：株式会社凡人社（担当：営業部 坂井）

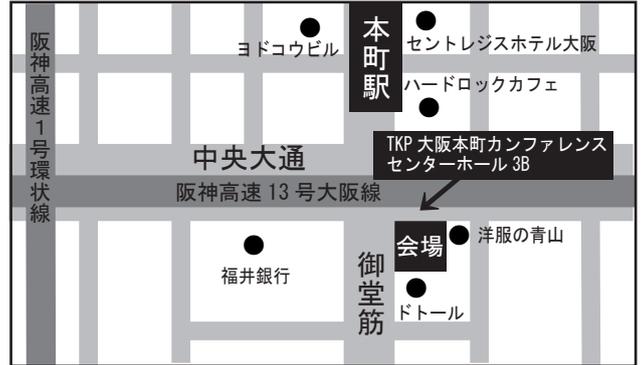
〒102-0093 千代田区平河町 1-3-13

ヒューリック平河町ビル 8 階

TEL：03-3263-3959 FAX：03-6733-7887

E-mail：ksakai@bonjinsha.co.jp

主催：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社



【アクセス】

- 大阪メトロ御堂筋線 本町駅 12 番出口 徒歩 1 分（地下鉄）
- 大阪メトロ中央線 本町駅 12 番出口 徒歩 1 分（地下鉄）
- 大阪メトロ四つ橋線 本町駅 12 番出口 徒歩 1 分（地下鉄）

● 内容／スケジュール（予定）

13：30～14：40 【研修会① 日本語教師のための入門言語学】

原沢伊都夫／静岡大学国際連携推進機構グローバル教育部門教授

日本語を教えるにあたって、日本語教師には「言語学」の知識が必要になります。「言語学」は日本語教育能力検定試験の出題範囲にも含まれ、中でもとりわけ難しい分野だと言われています。

『日本語教師のための入門言語学』は、難しいとされる言語学の理論を、身近な日本語を例にやさしく解説した本です。今回の研修会では本書を基に、どのように言語学の知識を日本語教育の現場に役立てるのか、言語にまつわる「ちょっといい話」を交えて、お話しいたします。

14：50～16：00 【研修会② 話す・考える・社会とつなぐためのリソース

—「教える」教材から「学び合う」教材へ—

八木真奈美／駿河台大学グローバル教育センター教授

日本語教育の教授法は、文法からコミュニカティブ・アプローチやインターアクション、さらに自己表現へ、また教師主導から学習者中心、さらに学習者主体へと変化してきました。教材は時の理論の影響を受けますが、近年は学習者の多様性やライフステージとの関わりも注目されています。そこで、今回は移住・定住外国人学習者のライフストーリーから「学び合う」、あるいは「学習者と社会をつなげる」という新しいコンセプトを持った教材とその実践を紹介したいと思います。

16：10～17：20 【研修会③ 「読む」教育を制するのは話題である】

山内博之／実践女子大学文学部国文学科教授

関心の持てない読み物を敢えて読もうとは思わないが、好きな話題の読み物ならどんどん読める。それが、「読む」ことに関するごく普通の感覚です。好きな話題の読み物をどんどん読んでいけば、その話題の語彙が身につく、その話題が学習者の十八番（おはこ）になります。そして、十八番の言語活動があれば、その周辺の話題もやがては十八番になっていき、そうして、学習者のプロフィシエンシーが向上していきます。本研修会では、学習者の全般的なプロフィシエンシーの向上を見据えた「読む」教育の話をしていきます。

* 当日、各研修の題材書籍や日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定での割り引きあり！

* 内容／スケジュールは変更の場合もございます。